

川喜田愛郎 （川喜田愛郎） 細菌學・醫史學者、醫學博士。明治四十一年一月
 ～二十九年東京生れ（一九〇九）。昭和七年東京帝國大學醫學部卒。同大
 傳染病研究所助教を経て、二十四年千葉大學教授、四十三年學長と
 なる。

譯著書、デューボス著『細菌細胞—細菌の生物學』（譯、昭和二十七年
 十一月十日岩波書店）、『生物と無脊椎動物の間—ウイルスの話』（昭和
 三十一年七月十日岩波書店）、「岩波新書」(一)、『小兎マヒ』（編、昭和
 二十六年十月、二十日岩波書店）、「岩波新書」(一)、『感染論—その生物學
 と病理學』（昭和二十九年一月二十一日岩波書店）、『ウイルスの世
 界』（昭和四十年五月二十日岩波書店）、「岩波新書」(一)、『ウイルスの
 生物學』（昭和四十年十一月二十四日岩波書店）、「現代科學選書」(一)、
 『パスツール』（昭和四十一年七月二十日岩波書店）、「岩波新書」(一)、
 『近代醫學の史的基盤』全二冊（上・昭和五十二年二月二十五日、下
 ・十一月八日岩波書店）等。

